

2025年8月17日（日）第二礼拝「いのちの本の記録と報い」創世記5章1～5節

今日の本文はアダムの歴史であり、アダムの子孫の記録です。神様はアダムの子孫を神様に似るように造られ、彼らを選び、イエス様の系図の中に記録されました。

第一番目、アダムの子孫の救いの記録です。創世記5章は、アダムとその子孫たちの名前と、その寿命の記載が続きます。このアダムの子孫の系図はイエス様にまで続きます。イエス様を信じる時、私たちは神様の霊的な子どもとなり、イエス様に続く者としていのちの書に名前を記されます。また、私たちが伝道して救われた人たちも神様の子どもとなり、私たちの名前に続いて彼らの名前も記されます。イエス様が伝道のために七十名の弟子たちを送り出された時、帰ってきた彼らが、イエス様の御名によって悪霊が服従したことを報告しました。しかし、イエス様は「悪霊が服従したことを喜ぶのではなく、ただあなたがたの名前が天に書きしるされていることを喜びなさい。」と言われました。イエス様を信じた人たちは神の子とされ、その名前がいのちの書に書きしるされ、天国に入ることができるのです。

第二番目、神様とともに歩んだエノクです。アダムに続く子孫の記録が続く中で、エノクの記載は特別です。「エノクはメトシェラを生んで後、三百年、神とともに歩んだ。…エノクは神とともに歩んだ。」（創世記5：22～24）「ともに歩む」とは、神様と親密な関係を持つことです。エノクは神様を深く知り、体験していました。「主を知ることを切に追い求めよう。」（ホセア6：3）「知る」とは、ヘブライ語で「ヤダ」と言い、「体験」、つまり夫婦になることを意味します。私たちはイエス様を信じて、神様の養子にさせていただき、神様と愛の関係で結ばれました。それはまさにホセアとゴメルの関係のようなものです。ホセアが神様に遊女ゴメルと結婚するよう言われたように、神様は私たちの最悪な部分を知った上で婚姻関係を結んでくださったのです。私たちに最悪の部分が合ったからといって、神様は幻滅されるようなお方ではありません。ゴメルのように私たちがこの世を愛して主から離れてしまう時でさえ、私たちを赦し、愛し、取り戻してくださいます。その時、私たちは神様の赦しの愛と清貧を学び、主の姿に変えられていくのです。これが主とともに歩むということです。

第三番目、エノクの報いです。「神が彼を取られたので、彼はいなくなった。」（創世記5：24）神様はエノクを生きたまま取られました。「信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。…移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。」（ヘブル11：5）「移された（ギリシャ語：メデテケン）」は、「変えられる」という意味です。エノクの肉体は、イエス様のよみがえりの姿と同様に復活のからだに変えられました。イエス様の再臨の時には、キリストにある死者が初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うことになります。また、エノクは信仰によって生きました。信仰とは、神様との人格的な関係です。自らの罪を悔い改め、神様との人格的な関係を求め、捜し、見つけることが大切です。神様を求める者には、神様との親密さをもって報いてくださいます。アーメン！